

暖かい日が続き、たくさん積もった園庭の雪もとけてきました。気温差が大きいですが、体調不良で欠席する子の数はこの時期にしてはとても少ないです。しかし、インフルエンザやコロナウイルスの感染者はちらほらとみられ、油断はできないな、と感じています。症状としては、微熱程度の場合もあるようですので、咳等の風邪症状が続く時には受診をお願いします。

3月3日は耳の日です お子さんの耳、こんな症状はないかな・・・？



子どもに多い 耳の病気

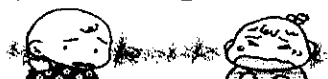
中 耳 炎

急性中耳炎

中耳（鼓膜の内側）に、鼻やのどから細菌やウイルスが入って炎症を起こし、うみがたまる病気です。小さな子どもでは、かぜの後、鼻やのどの炎症に続いて起こることがよくあります。

主な症状

- ◆激しい耳の痛み
- ◆発熱
- ◆耳だれ
(耳から液体が出る)
- ◆耳がつまった感じ



気をつけること

◆小さな子の様子に注意
耳が痛くても、言葉で症状を訴えられないことがあります。耳に手をやったり、理由もなく、ぐずるときは、体温の変化や耳の様子に注意してみてください。

滲出性中耳炎

中耳腔（鼓膜の内側の部屋）に液体（滲出液）がたまる病気です。

急性中耳炎が完全に治りきらず、鼓膜の内側にうみが残って起こる場合があります。

主な症状

- ◆耳が聞こえにくい（難聴）
- ・何度呼んでも返事をしない。
- ・テレビを見るとき、音量を大きくしている。



気をつけること

◆中耳炎の治療は、最後まできちんと受けること
治療を途中でやめてしまうと、慢性中耳炎に移行することがあります。「完全に治った」と言われるまで、治療を続けてください。

中耳炎の予防には、鼻をかむことがとても大切です。早い子で2歳くらい、たいてい3歳くらいになると、上手に鼻がかめるようになります。

鼻水が出ている時は拭き取るだけでなく、しっかりとかませてあげるようにしましょう。片方の鼻をきちんと押さえてあげて片方ずつかませること、また、強くかみすぎないことが大切です。上手にフーンとできないときには、フーンとしたときに口から空気が漏れないようにそっと口を閉じてあげるとできるようになることがあります。また、テーブルの上にちぎったティッシュを置いて、鼻息だけでティッシュを飛ばす遊びをすると、コツをつかめるかもしれません。

これから、花粉症の症状が出始める時期です。鼻水も出やすくなるので上手にかめるよう練習し、中耳炎を予防していきましょう。